



東京パラリンピック開会式の模様 (福祉新聞社提供)

日身連では、パラリンピック大会決定以降、大会開催に向けたオリパラ組織委員会からの依頼によりアクセスシビリティ協議会をはじめ、建築交通アクセス、コミュニケーション等の部会や接遇・心のバリアフリー作業部会等に参

夏季大会を2度経験するのが史上初となる第16回夏季パラリンピック東京大会が8月24日開幕、13日間にわたり開催されました。全国的な新型コロナウイルス感染拡大の中での開催のため、史上最多の選手を迎えた22競技539種目の競技は、原則無観客での実施となりました。日本のパラアスリートの活躍は目覚ましく、メダルの獲得にとどまらず、日本中に多くの感動をとどけました。

# 東京パラリンピック開催 感動の13日間!



発行所  
社会福祉法人  
日本身体障害者団体連合会  
(中央障害者社会参加推進センター)  
発行人 阿部 一彦  
東京都豊島区目白3丁目4の3  
ディアダックビル4階  
TEL 03-3565-3399(代)  
FAX 03-3565-3349  
http://www.nissinren.or.jp  
Japanese Federation of  
Organizations of the  
Disabled Persons (JFOD)  
年間購読料 正会員1部 300円  
非会員1部 1000円

障害者の鉄道利用において、駅の無人化が増加傾向にあることや、有人駅であっても一部時間帯に駅員が不在となるのが問題視されています。そこで、国土交通省では、可能な限り鉄道が安心して利用できる環境整備を検討するため、障害者団体、鉄道事業者の双方から課題解消に向けた検討の場として、令和2年11月から3者(障害者団体、鉄道事業者、国土交通省)による意見交換会を行ってきました。

意見交換会では、①視覚障害や聴覚障害のある方への適切な案内と情報提供、②介助の申込み等の事前連絡に関する認識共有等を課題に検討を行ってきました。そして、第4回(5月14日)には、これまでの議論と今後の方向性が共有され、ガイドライン取りまとめに向けた議論が行われました。日身連から参加している土岐達志副会長は、「技術的な改善に困難な面があることは理解できるが、新技術の活用とともに心のバリアフリーを基本的な考えとして共有いただきたい」と要望しました。

## 駅の無人化意見交換会で 中間とりまとめが検討

加し、『Tokyo 2020 アクセシビリティ・ガイドライン』の作成や関連ワークショップ、アクセシブルルートの視察等に協力しました。

大会開催を前に、新聞社の取材に対して、阿部一彦会長は「ハード面での環境整備は確実に進んだ。意思決定に当事者を関与させることを国レベルの取り組みだけでなく地方にも浸透してほしい」、「障害者はそれぞれが困難なことに様々な工夫をして生活している。その人そのものを見てほしい」と訴え、「オリパラ大会を機に、多様性を認め合う成熟した共生社会のあり方を考えるきっかけにしたい」と期待をよせています。



日本選手団の入場行進 ((公財)日本障がい者スポーツ協会提供)